

年 組 名前 :

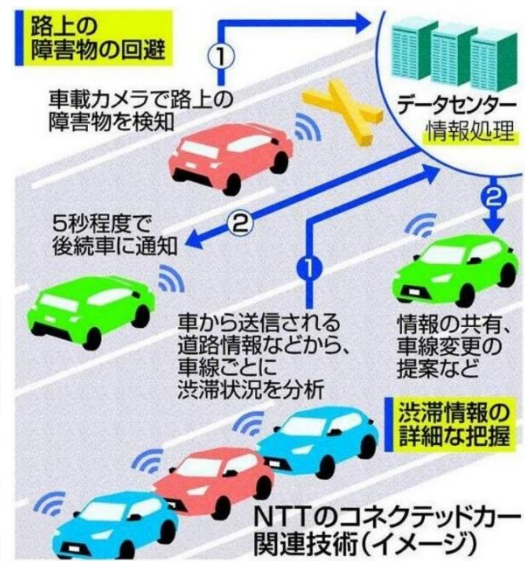
NTT 走行データ共有化加速 自動運転 普及基盤に

NTTは、インターネットに接続したコネクテッドカー（つながる車）最大数千万台から集めた走行データを瞬時に解析する技術を、2023年度にも実用化する。車から送信される渋滞や事故などの道路情報を素早く共有することで、それぞれの車が安全で効率的なルートを走行できる効果が期待でき、将来的な自動運転の普及に向けた基盤技

術とアピールする。トヨタ自動車と組んでコネクテッドカーの技術開発に関する実証実験を行い、3万台以上が同時接続しても問題なくデータ処理できることを既に確認した。国内の複数の自動車メーカーと実用化に向けた協議に入っており、NTTの技術を組み込んだカーナビが搭載されるなどの可能性がある。

NTTの技術では、車載カメラが捉えた映像から路上に落下した障害物の位置を検知し、5秒程度で後続車に知らせることができる。また渋滞状況やその原因も車線単位で詳細に把握できるため、余裕

を持った車線変更でスムーズな走行が可能となる。人の代わりにシステムが車を制御する高度な自動運転では、地図情報や周囲の道路状況などを常に把握できることが不可欠だ。コネクテッドカーは欧米や中国などでも開発が進んでおり、NTTはこの技術を海外メーカー向けに展開することも想定している。



(2023年1月17日付
山梨日日新聞8面)

問1

「コネクテッドカー」とは、どのような車のことですか。

.....

問2

NTT が2023年度に実用化する技術は、何を瞬時に解析しますか。

.....

問3

どのような情報から、「スムーズな走行が可能となる」のですか。

.....

.....

問4

自動車の自動運転を実用化させるには、何が不可欠であると言われていていますか。

.....